

二年 国語 (光村)

スーホの白い馬

第一次指導 第一時 三月三日実施

- 一 よむ 一人(絵に合わせて八区画)
- 二 とく(読後感の整理の話し合い)

○ 題目

- ・ この話は、どこの国の話ですか。
モンゴルです。

・ 中国の北の方の国です。両横綱の生まれた国です。その国の様子の分かる絵を開けてください。この絵を見て気づいたことを話してください。

牛や羊や馬がいます。

・ 馬はどこにいますか。指してください。他には。

草原です。

・ そうです。広い草原が広がっています。牛や馬や羊の他にも、この草原には住んでいるものがいます。何でしょうか。

狼です。

・ 狼も住んでいるそんな広い草原で、羊の

世話をしているのが、誰ですか。

スーホです。

・ スーホは、羊飼いです。スーホの家族は、どうなっていますか。

おばあさんと二人暮らしです。

・ 二人暮らしの貧しい羊飼いです。スーホはどんな人。

優しい人です。

歌の上手な少年です。

◎ ひびき

・ 少年です。少年ですから小学生から中学生ぐらいです。そのスーホが、どこで白い馬を見つけたのですか。

夕方です。

帰る途中です。

・ 羊に草を食わせて、その帰りに見つけます。その白い馬に、何と名前を付けて育てましたか。

白馬です。

・ 白馬と呼んで、大事に育てました。その白馬から生まれた楽器が何ですか。

馬頭琴です。

・ 馬頭琴が生まれたという悲しい物語です。

○ 手引き

・ 2番から絵を見て、スーホのしたことを探して、短い言葉で書き出しましょう。

三 よむ(手引きに従って黙読)

四 かく(三よむと同時進行で 今回は全員で)

・ 2は、スーホが何をしていますか。

スーホが、何か白いものをだきかかえて、帰ってきました。

・ そうです。短く書くとしたら、何を書きますか。
「だきかかえて」です。

・ だきかかえてと書いてください。3は、どこにでていますか。

白馬の体をなでながら、きょうだいに言うよう話しかけました。

・ 狼と戦った白馬の体をなでながら、兄弟に言うよう話しかけましたと、ありますので、なでながらにしましょう。4は。

スーホののった白馬です。

・ 白馬にスーホが乗っています。「のって」と書いてください。5は。

かっとなつて、むちようで言いかえました。

・ かつとなつて、むちゆうで言いかえしましたので、言いかえしましたと、書いてください。6は、スーホが出てきませんので、○を書いてください。7は。

矢をぬきました。

・ 歯を食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬきました。で、ぬきましたと、書いてください。8は。

この馬頭琴をもつていきました。

・ どこへ行くときも、馬頭琴をもつていきました。もつていきましたと書きます。

五 よむ（板書を指黙読してから指音読）

六 とく（5で読んだ板書をもとに話し合い）

○ 事実（板書事項に関連つける）

・ 白馬にスーホが触っているのは、どれですか。

白いものをだきかかえています。

白馬ののっています。

体をなでています。

白馬にささっている矢をぬいています。

ます。

・ そうです。この中で、スーホが喜びながら触っているのは、何番でしょうか。

2と3と4です。

・ そうです。では、7番は、どんな気持ちで触っていますか。

悲しい気持ちです。

悔しい気持ちです。

怒っている気持ちです。

・ そうです。この気持ちと同じなのは、何番ですか。

5番です。

・ 5番です。ここで、言いかえたのは、誰に対してですか。

とのさまです。

・ とのさまです。とのさまのわがままで白馬は、どうなってしまうのですか。

死んでしまいます。

・ 死んでしまいました。それで、スーホは、死んだ白馬に教わって何を作ったのですか。

馬頭琴です。

・ 馬頭琴を作って、それを弾きながら歌を聴かせたというモンゴルの民話です。

馬頭琴です。

○ 区分

・ スーホが死ぬまで、白馬と一緒にいるのは

は何番でしょうか。

8番です。

・ 白馬の骨や皮や毛で作った馬頭琴を弾くたびに、すぐわきに白馬がいる気がしていました。その白馬に、最初に出会ったのは、何番ですか。

2番です。

・ 2番です。生まれたばかりの白馬を抱きかかえて帰ってきました。白馬とスーホが離れ離れになってしまったのは何番からですか。

5番からです。

・ 5番で無理やり殿様に白馬を取られてしまい、7番では、死んでしまいます。

・ 3と4は、スーホと白馬がどんな関係になるところですか。

兄弟のような関係です。

・ 兄弟のようになります。大好きな白馬が馬頭琴の作り方を教えてくれたので、いつも一緒にいられるようになったという話です。

◎ 山

・ 兄弟のようになったところ（3）と無理

やり引き離されるところ(5・7)と馬頭

第二次第一時

三月四日実施

琴のところ(8)を詳しく勉強します。

七 よむ(板書を全員で指音読)

一 よむ 七名(1から4まで)

・ 元氣よく読みます。この鞭の動きに合わせ

二 一とく

せて読みましょう。

○ おさらい

〈板書事項〉

・ スーホと白馬がずっと一緒にいられるようになったのは、何番ですか。

8番です。

・ 殿様のわがままで死んで白馬が死んでしま

います。悲しむスーホに教えたことは何

少年 馬頭琴

スーホの白い馬

白馬

・ 馬頭琴になった白馬とどこへ行くのも一緒

・ 馬頭琴になった白馬といつも一緒のスー

1 モンゴル

2 だきかかえて

・ 2番です。そのときの白馬はどんな馬でしたか。

子馬でした。

・ 白馬が思い出すのは、兄弟のようにして過ご

3 なでながら

・ 子馬も子馬、どんな子馬でしたか。

4 のった

・ 生まれたばかりの赤ちゃんでした。

◎ 承接

・ 白馬と生活を始めたスーホですが、貧し

5 言いかえしました

・ 馬の赤ちゃんですが、すぐに立てるでしようか。

立てません。

・ 心をこめて世話しましたので、どんな

6 ○

・ 残念でした。馬の赤ちゃんは、三十分も

・ 心をこめて世話しましたので、どんな

7 ぬきました

8 もっていききました

・ 白馬は、まだもがいていたのですから、本

・ 馬に育ちましたか。

・ 引き裂かれた場面は何番からですか。

5番からです。

・ 5番から7番までです。引き裂いたのは誰

ですか。

殿様です。

・ 馬頭琴です。

雪のように白い馬です。

きつりと引きしつた体です。

速い馬です。

・ そうです。だれでも思わず見とれるほど

素晴らしい馬になりました。

・ スーホが白馬のことをもつと大事に思う

ようになった事件が起きました。それ何か。

狼から羊を守りました。

・ そうです。その時の鳴き声と騒ぎでスー

ホは、どうしましたか。

飛び起きました。

狼を追い払いました。

・ そうです。急いで羊の囲いのそばに行き、

狼を追い払いました。

○ 手引

・ スーホが白馬に話しかける場面を書いて

勉強します。

三 よむ

四 かく

スーホは、あせまみれ

になった白馬の体を

なでながら、兄弟に

言うように話しかけました。

「よくやってくれたね、白馬。

本当にありがとう。

これから先、どんなときでも

ぼくはおまえといっしょだよ。」

五 よむ

六 とく

○ 語義・区分

(あせまみれ ありがとう 兄弟)

(地も会話も二区分)

◎ 心

・ 心からのお礼と分かるのは。

本当にありがとう。

・ よくやってくれたね。

・ 前の方にもあります。

体をなでながらです。

・ 白馬に一番分かってもらいたいののは。

いっしょだよです。

・ 一緒にいると言っています。その気持ち

が強く出ています。どこですか。

どんなときでもです。

・ いつも、ずっと一緒だと言っています。

その言い方が、誰に話しているようですか。

兄弟です。

・ 白馬が、兄弟になりました。

七 よむ

(板書事項)

2 だき

3 弟

4 兄

5 6 お

7 馬

8 頭

琴

スーホは、あせまみれ

になった白馬の体を

なでながら、兄弟に

言うように話しかけました。

「よくやってくれたね、白馬。

本当にありがとう。

これから先、どんなときでも

ぼくはおまえといっしょだよ。」

第二次第二時

三月五日実施

一 よむ 九名（4から8まで）

二 とく

○ おさらい

・ 大事な羊を守ってくれた白馬に言ったことは何と何。

よくやったねと褒めました。

本当にありがとうと礼をいった。

・ そうです。お礼を言ったことが一つ。もう一つは。

これから先、いつも一緒だよです。

約束です。

・ いつも一緒にいると約束しました。これで、スーホと白馬はどういう関係になりましたか。

兄弟です。

・ 兄弟です。兄は、どっちですか。

スーホです。

・ スーホです。だから、優しく言いました。よくやってくれたねの何に出ていますか。

ねです。

◎ 承接

・ 白馬は、羊飼いの仲間からも認められる馬になりました。どんなころですか。

引き締まった体です。

足が速いです。

・ そうです。みんなが見とれるほど素晴らしい馬になりました。ところで、馬は生まれると三〇分くらいで立てます。人間は、どのくらいで立てますか。

七ヶ月くらいです。

・ そうです。早い人で七ヶ月くらい、遅い人で一年くらいです。馬は、人の七倍くらい早く大きくなります。一年たつと七歳くらいです。三歳になると競馬ができるようになります。

・ 春になると、競馬大会が開かれました。誰が開いたのですか。

殿様です。

・ この辺りを治める殿様です。優勝するとどうなるのですか。

お嬢さんになれます。

・ そう、殿様の娘と結婚できるのです。

・ 参加者は、どんな人たちでしたか。

たくましい若者です。

・ その中でも、結果はどうでしたか。一等でした。

・ 優勝したスーホを見た殿様は、どんなことをしましたか。

銀貨三枚で白馬をとってしまいました。した。

・ 白馬をとってしまいました。その他にはどんなことをしましたか。

ぼこぼこにしました。

・ ぼこぼこにしてしまいました。それで、スーホはどうなっていましたか。

気を失ってしまいました。

○ 手引

・ 気を失ったスーホが家に帰ってからのとろを勉強します。

三 よむ

四 かく

おかげで、何日かたつと、きずもやつとなおってきました。

それでも、白馬をとられたかなしみは、どうしても

きえません。白馬はどうして

いるだろうと、スーホは、

そればかり考えていました。

五 よむ

六 とく

○ 語義・区分

・ おかげでというのは、どういうことですか。
世話になった時です。

・ 世話をしたのは誰ですか。

おばあさんです。

・ やつとというのは、どういうことですか。

何日かたつとやつとです。

・ 時間がかかっているということですか。それ
でもとは、どういうことですか。

反対のことです。

・ やつと治つたの反対のことが次に書いて
あるというときに使います。悲しみと同じ
意味の言葉を前から探すと何ですか。

傷です。

・ 傷です。この傷はどこ傷ですか。

心です。

・ では、前の傷は、何処の傷ですか。

体です。

・ 体の傷です。そればかりの意味は何です

か。

ずっと同じことを考えています。

・ 同じことを考えています。誰にことす
か。

白馬です。

・ 前は傷のことです。後ろは何のことす
か。

考えていることです。

・ 前の傷のところを二つに分けると、
前は、体の傷です。後は、心の傷です。

◎ 心

・ この心の傷を治せるのは、誰ですか。

白馬です。

・ 白馬だけが治せます。治らないというの
がどこで分かりますか。

どうしてもです。

・ そんなスーホが考えているのは、何です
か。

白馬がどうしているかです。

・ 白馬が、どうしているかと心配していま
す。それは、兄として何ができなかったか
らですか。前の方(おさらいの扱い)にあ
ります。

約束です。

・ いつもいつしよだよ。という兄の約束が
守れなかったからです。白馬が、スーホの
お兄さんになってスーホを励ますところ
を明日勉強します。

七 よむ

(板書事項)

よー あー
いー 兄ー

おかげで、何日かたつと、

きずもやつとなおってきました。

それでも、白馬をとられた

かなしみは、どうしても

きえません。白馬はどうして

いるだろうと、スーホは、

そればかり考えていました。

第二次第三時

三月六日(予定)

九日に延期

一 よむ 九名(4から8まで)

二 とく

○ おさらい

・ スーホの傷の手当てをしてくれたのは。

おばあさんです。

・ おばあさんの手当てでも治らなかった傷は何ですか。

悲しみです。

・ 体の傷は、おばあさんの世話で治りましたが、心の傷の悲しみは、治りませんでした。そんなスーホの頭を離れなかったのは何ですか。

白馬がどうしているからです。

・ 白馬との約束を守れなかった白馬の兄さんのスーホですから白馬のことを心配しています。

◎ 承接

・ 一方、白馬も誰のことを考えていたでしょうか。

スーホのことです。

・ スーホのことが心配です。殿様に何をさ

れたのを見ていましたか。

けとばされたり、なぐられたりした。

・ 気を失うまでやられました。白馬は、王様のところから逃げ出すチャンスを狙っていました。いつですか。

王様が白馬に乗った時です

・ 王様が白馬にまたがった時が、逃げ出すチャンスです。その時に白馬は力いっぱいどうしましたか。

勢いよく跳ねあがりました。

・ そうです。またがった時に跳ね上がると落ちてしまいます。王様は、何をしたいと思つて白馬に乗ったのですか。

みんなに見せびらかしたいからです。

・ でも、王様は恥をかいてしまいました。それで、どんな命令をしましたか。

捕まえろです。

・ 弓の矢が刺さってしまった白馬は、それでも、何処に帰りついたのですか。

スーホのところへです。

・ スーホのところへたどりついた白馬は、

どうなりましたか。

死んでしまいました。

・ 死んでしまった白馬が悲しむスーホに素晴らしい贈り物をしましたが、それは何ですか。

馬頭琴です。

・ 悲しむスーホに兄のように優しく馬頭琴の作り方を教えました。

○ 手引

・ 馬頭琴を使っているスーホのところを書いて勉強します。

三 よむ

四 かく それをひくたびに、くやしさを

楽しさを思い出しました。そして、スーホは、自分のすぐわきに白馬がいるような気がしました。そんなとき、がっきの音は、ますますうつくしくひびき、聞く人の心をゆりうごかすのでした。

五 よむ

六 とく

○ 語義・区分

(たびに) すぐわき いるような

そんなとき ひびき 聞く人

ゆりうごかす)

(二区分 前 二区分 後 二区分)

◎ 心

・ スーホノ歌声は、どんな歌声でしたか。

草原を越えて響く美しい歌声です。

・ スーホは、他の羊飼いに頼まれてその美しい歌声を聞かせていました。そんなスーホの歌声をもっと、素晴らしいものにしたのは何ですか。

馬頭琴です。

・ 今までは、歌だけでしたが、楽器の伴奏がつくようになったので、もっと歌声も響き渡るようになりました。

・ 白馬に教わって、白馬の骨や皮や毛を使って作った馬頭琴が、モンゴルの広い草原の羊飼いたちに広まったわけが書いてあります。どの言葉で分かりますか。

聞く人の心を揺り動かすです。

・ 羊飼いたちは、その美しい音に耳を澄まし、一日の疲れを忘れることができたから、

馬頭琴がモンゴル中に広まっていききました。

・ スーホが歌い、弾いた馬頭琴の音が、聞く人の心を揺り動かしたのは、どんな時でしょうか。

ますます美しく響くときです。

・ ますます響くときです。そのとき、スーホの心の中には、何が見えているのですか。

白馬です。

・ 白馬です。すぐ脇に白馬がいるような気がしていました。それは、どんなときですか。

思い出すたびです。

・ スーホは、白馬との楽しい思い出や悲しみを歌いました。自分の気持ちに込められているから聞く人の心に響くのです。

七
よむ

(板書事項)

きー おばあさん

○体 ×心

白ー死 ×とー

それをひくたびに、くやしさを

楽しさを思い出しました。そして、

スーホは、自分のすぐわきに

白馬がいるような気がしました。

そんなとき、がっきの音は、

ますますうつくしくひびき、

聞く人の心をゆりうごかす

のでした。

一 よむ 十四名(全区画を分担して)

二 とく

○ おさらい

・ スーホが、馬頭琴を使って歌いだすと、誰が、喜びましたか。

聞いていた羊飼いたちです。

白馬です。

・ 聞いている人もですが、白馬も喜んでい

ったからです。その歌には、何が込められていますか。

スーホの思い出です。

スーホの心です。

・ スーホの白馬との楽しい思い出やくやしなど、スーホの心が込められています。それは、聞いている羊飼いてもスーホの気持ちがよく分かりました。それで、スーホの馬頭琴の美しい響きが、モンゴル中に広まり、他の羊飼いたちも何を作るようになったのでしょうか。

馬頭琴です。

・ そうして、馬頭琴がモンゴルに広まったという話です。

◎ 承接

・ スーホが作った馬頭琴には、悲しい話が伝わっているという民話でした。この話の始まりは、スーホが何をしたからですか。

馬の赤ちゃんを見つけたからです。

・ 馬の赤ちゃんを見つけて、狼に食われてしまうかも知れないのを救ったのが話の始まりでした。ところで、スーホには、兄弟がいまいましたか。

いません。

・ 兄弟のいないスーホには、白馬が何になりましたか。

弟のようになりました。

・ スーホは、白馬を弟のように心を込めて世話をしました。だから、白馬は、どんな馬に育ちましたか。

見とれるほど素晴らしい馬です。

・ 素晴らしい馬に育った白馬を奪ってしまったのは誰ですか。

殿様です。

・ 殿さまで、殿様のわがままで、白馬は、

死んでしまいました。でも、白馬は、大好きなスーホに素晴らしいことを教えてくれました。

骨や皮や毛を使って楽器を作るこ

とです。

いつまでもあなたのそばにいられることです。

・ 歌の上手なスーホは、いつも白馬が教えてくれた楽器を持って、仲間の羊飼いのために歌を歌いました。その響きは、どんなでしたか。

草原に響き渡りました。

聞く人の心を揺り動かしました。

・ 夕方になると、歌いながら馬頭琴を弾く音が草原に響き渡ったというモンゴルの民話でした。

○ 手引

・ 教科書の下に出ている新しい漢字と読み替への漢字を黒板に書きます。それをみて、読み方をひらがなでノートに書いてください。

三 よむ

四 かく

1 草原

馬

馬頭琴

2 少年

年

食われる

3 兄弟

4 けい馬

5 売る

家来

7 弱りはてる

8 音

五 よむ

六 とく

○ 文中の位置

・ スーホと白馬の話が始まるのは、2番です。どの漢字からですか。

少年です。

・ 少年です。前は、1のところでは、殿様が出てくるのは5番からです。どの漢字で分かりますか。

売ります。

・ 馬を売りに来たのではないのですと殿様

に言いかえました。この前までが4です。

白馬とスーホが兄弟のように生活していたところでは、

・ 殿様のために白馬が死んでしまうのが、7番です。どの漢字までですか。

弱りはてるまでです。

・ 弱りはてて、息も細くなり、目の光も消えていきました。ここまでが7番です。残りが、8になります。

◎ こもる力

・ 馬頭琴がモンゴルの草原に広がった話ですが、それは、広がった訳が分かるのはどの漢字ですか。

音です。

・ スーホの歌声と馬頭琴の響く音が、聞く人の心を揺り動かしたからです。その音色には、二人の何が込められていますか。

心です。

・ 二人の気持ち、分かるのは、どの漢字ですか。

兄弟です。

・ スーホは、白馬を弟と思い、白馬は、ス

ーホを大好きな兄と想ったり、悲しませない方法を教えたりしました。スーホが、兄らしいことを考えたのが、分かるのはどの漢字でしょうか。

食われるです。

・ 赤ちゃんの白馬が狼に食われてしまうかもしれないと抱きかかえて帰ってきてくれました。スーホの優しい気持ちが分かる、他の漢字はどれですか。

年です。

・ 年とつたおばあさんと二人暮らしたので、おばあさんを助けて、御飯の支度もしました。兄として、頑張っている漢字もあります。どれですか。

売ります。

・ 馬を売りに来たわけではありませんと、殿様に言いかえています。二人が一緒に頑張っているのは、どの漢字に表れていますか。

競馬です。

・ 少年のスーホが、若者たちを相手にして競馬で優勝しました。そのために、二人の仲をだめにしたのは、どの漢字ですか。

家来です。

(板書事項)

・ 殿様の命令に従った家来たちです。家来のために白馬は、どうなってしまうのでしょうか。この中の漢字ではどれですか。

弱りはてるです。

・ 大好きなスーホのところまで、逃げてきたのですが、矢が刺さったまま長い距離走ったりしたので、弱りはてて死んでしまいました。この苦しみや悲しみが馬頭琴の響きの中に出てくるので、聞く人の心が揺り動かされたというモンゴルの羊飼いの民話です。

・ では、読み方が二つある漢字をさがしてください。

馬(うま バ)

草原(ソウゲン くさはら)

頭(トウ あたま)

少年(シヨウネン すくない とし)

兄弟(キョウダイ あにおとうと)

家来(ケライ いえくる)

音(ね おと オン)

七よむ

*家の帰ったら平仮名の下に漢字を書く。

1	草原	くさ はら
	馬	バ
	馬頭琴	あたま
2	少年	すくない
	年	
	食われる	
	兄弟	あに おとうと
4	けい馬	
5	売る	いえ くる
	家来	
7	弱りはてる	
8	音	オン おと